

平成 26 年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、全国的に低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、東・西日本太平洋側では気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。3 日から 4 日にかけては低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海に進み、日本付近は冬型の気圧配置となりました。このため、日本海側では曇りや雨または雪となり、北日本を中心に大荒れの天気となりました。また、4 日から 5 日にかけては台風第 20 号とその北側に位置する前線とが日本の南の海上を北上したため、東日本太平洋側を中心に曇りや雨となりました。

中旬は、冬型の気圧配置となる日が多く、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雨または雪となり、太平洋側で晴れた日が多くなりました。特に、13 日から 15 日にかけては強い冬型の気圧配置となって、北日本と東日本日本海側では大荒れの天気となり、札幌では 15 日に 25cm の最深積雪となるなど、北日本では局地的に大雪となったところがありました。

下旬は、旬の前半は移動性高気圧に覆われ、全国的に晴れた日が多くなりました。後半は低気圧や前線が短い周期で日本付近を通過したため、東・西日本や沖縄・奄美では雨の降った日が多く、西日本日本海側では降水量がかなり多くなりました。また、沖縄・奄美では、27 日から 28 日にかけて気圧の谷の影響により下地（沖縄県宮古島市）で 365.5mm の雨が降るなど、先島諸島で大雨となりました。一方、北日本日本海側では降水量がかなり少なく、日照時間がかかなり多くなりました。また、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に顕著な高温となりました。

月平均気温は、全国的に高くなりました。月降水量は、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なくなりました。月間日照時間は、北日本日本海側でかなり多く、沖縄・奄美で多くなりました。一方、東日本太平洋側では少なくなりました。

【11 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 3 ポイント高い 87% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 83% でした。各地方の適中率では、明日予報は、関東甲信地方と九州南部地方で 2~3 ポイント低くなった他は例年値以上となりました。明後日予報は、全ての地方で例年値以上となりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなり、特に中国地方と四国地方では 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなり、特に九州南部地方では 0.5 小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月は、冬型の気圧配置となって日本海側の地方では雪や雨の日が多くなりますし、大雪が続いて一層の対策が必要となることもあります。一方、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなりますし、日本の南岸を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。天気予報とともに、最新の気象情報や大雪についての警報や注意報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。